

# 産業都市委員会 行政調査報告書

## 1 調査期間

平成22年10月4日（月）から10月6日（水）まで

## 2 調査先及び調査事項

### (1) 北海道帯広市（10月4日）

「産業振興施策について」

平成19年に施行した「帯広市中小企業振興基本条例」に基づく中小企業振興のための指針として、平成21年に策定された「帯広市産業振興ビジョン」に関する調査・研究。

### (2) 北海道富良野市（10月5日）

「観光振興施策について」

「持続可能な観光振興に向けて」をはじめとした4つの柱を設定し、平成20年に策定された「富良野市観光振興計画」に関する調査・研究。

### (3) 北海道富良野市（社団法人 ふらの観光協会）（10月6日）

「観光振興施策について」

富良野市及び富良野市を中心とする地域の観光宣伝、観光客誘致促進などを行っている「ふらの観光協会」の運営に関する調査・研究。

## 3 参加委員

委員長	林	恒	雄	
副委員長	と	も	宣	子
委員	甚	野	博	義
委員	田	中	邦	友
委員	田	中	哲	
委員	木	内	清	
委員	西	恭	三郎	

## 4 同行理事者

産業観光部長 栗田 陽

## 5 調査概要

別紙のとおり

## 調査概要 【帯広市】

### 1 市の概要

帯広市は北海道の十勝地方のほぼ中央に位置する、人口約17万人のまちであり、明治16年に本格的な開拓がはじまり、碁盤目状の道路網など計画的な市街地形成を行ってきた。また、農業を主要産業とする十勝地方の中心地で、農産物集積地、商業都市としての役割を担っている。

面積は618.94平方キロメートルで、南西部は十勝幌尻岳など日高山脈が占め、市域の1割が「日高山脈襟裳国定公園」に指定されている。また、山地から札内川、帯広川、戸蔦別川などが流れ出ており、札内川の水は水道水の原水として利用している。一方、市域の約6割を占める中央部・北東部の平地は、その約半分が農地であり、全国でも有数の大規模経営の畑作地帯になっている。市街地は市域の北東端に位置し、全国6位の流域面積の十勝川や札内川に隣接している。

本年、基本構想、基本計画、推進計画で構成される、「第六期帯広市総合計画」を策定し、この計画に基づき、「人と環境にやさしい 活力ある 田園都市 おびひろ」の実現に向け取り組んでいる。

(参考資料 地方公共団体総覧)

### 2 調査事項

#### (1) 産業振興施策について

##### ア 「産業振興ビジョン」

帯広市は、平成19年に施行した「帯広市中小企業振興基本条例」に基づく中小企業振興のための指針として、平成21年2月に「帯広市産業振興ビジョン」を策定し、様々な事業を推進しており、それらの取組状況及び課題等について調査するものである。

### 3 主な質疑応答等

Q：予算に対する商工費の割合が10%であるが、この詳細な内訳を伺いたい。本区は昭和54年の条例制定前は0.15%であったが、その後、箱ものを作ったときには5%になったことはあるが、今は約2%をキープしていて、全国的にも比較的高いレベルにある。おそらく10%は帯広市が最高ではないか。どのような支出をしているのか。

また、製粉工場建設の件で付加価値が高められるという説明があった。本区においても、すみだブランドをどのように成功させるかという問題がある。昔、本区は横山町の間屋の下請けで、その後は大手メーカーの下請けとなり、がんじがらめだった。すみだのブランドをどのように発祥させていくかということが、ここ20、30年の最大の眼目であった。伺った話では、小麦が原材料のまま出て行くとブランドがつかない。ブランドをつけるために現地生産をしようということである。大変素晴らしいことだと思うが、付加価値の目標をどのように設定しているのか。今、95%以上が原材料のまま出ているということであるが、これをどこまでブランド化しようとしているのか。また、このことによって雇用にはどのぐらい影響があると考えているか。

A：予算については、制度融資に係る預託が73億円ある。また、信用保証料に係る補助金を1億円執行している。これが商工費の予算のほとんどを占めている。

Q：実質的な事業費はどのぐらいか。

A：7億円から8億円程度である。

Q：本区は近年、預託を20億円行っていたが、銀行法の改正により廃止した。

A：元金保証の決済性預金で行っている。

製粉工場で扱われる小麦の量が24万トンのうち4000トンであり、量としてはそれほど多くはない。目標の設定は特にしていないが、効果を期待している。

Q：年齢別人口を見ると高齢者はそれほど多くなく、比較的中高年が多いように見える。これは北海道としての特色と考えるとよろしいのか。また、道内からの転入・転出が多いが、これも北海道、または帯広市の特色なのか。

産業振興ビジョンの中に重点的な事業がいくつかある。一つはとちかち応援団のネットワーク化である。帯広市出身者等をネットワーク化するということであるが、事業の詳細を伺う。次に、人材マッチングシステムということで、ジョブジョブとちかちを実施されている。本区も雇用情勢が厳しい中でなんとかしたいと考えているが、一般的には求人情報を集めてきて、それに対して、区民の方をマッチングするということが多い。この事業は求職者の経歴等をデータベース化して、逆に企業の側からアプローチするようであるが、事業の詳細を伺う。

A：とちかち応援団のネットワーク化についてであるが、これは帯広東京会があり、関西にも組織がある。帯広出身者や帯広にゆかりのある人などにアプローチし、まずはこちらから産業関係の情報を提供している。いきなり情報の提供を求めては負担になるので、こちらから、最近の帯広市の情報を提供し、コミュニケーションの中から様々な情報をいただくということで、現在検討中ではあるが、そのような仕組みづくりをしている。帯広東京会などは高齢の方が多く、情報を得るのは難しいが、今年から来年にかけて帯広に勤務したことのある方をうまくネットワーク化できればと考えている。

ジョブジョブとちかちについては、求人情報を、一定程度のレベルを持っている方を認定し、その方を匿名で企業に情報提供している。これは中小企業同友会にお願いしている。昨年、この取組により13人が就職した。

雇用関係については、厚生労働省のパッケージ事業を平成18年から3年間実施し、平成21年から新パッケージ事業に取り組んでいるが、最初のパッケージ事業で1008人の雇用効果を出し、昨年の新パッケージ事業では百数十人の雇用効果を出している。一部、非正規雇用もあるがそのような効果が出ている。国の緊急雇用創出事業などで、昨年はおよそ事業費ベースで約7000万円程度、また、市独自の取組で7000万円程度、合わせて約1億5000万円程度の雇用対策を行った。

帯広の人口については、比較的若いということで考えていただいて構わないが詳しい分析を持ち合わせていない。また、転入・転出であるが、最近帯広市周辺に住宅団地が造成され、かなり帯広市の人口が流出している。このあたりの人口の行き来が盛んになっているのではないか。

以上

#### 4 添付資料等 原本添付省略

## 調査概要 【富良野市】

### 1 市の概要

富良野市は、上川支庁管内の南部に位置し、北海道のほぼ中心にあり富良野盆地の中心都市である。総面積は、600.97平方キロメートルで、東方に大雪山系十勝岳、西方に夕張山系芦別岳がそびえ、南方には千古の謎を秘めた天然林の大樹海があり、市域の約7割が山林という恵まれた自然環境にある。

昭和44年に広域市町村圏の指定を受け、農業を基盤とする富良野地方1市3町1村の拠点都市として恵まれた自然条件を最大限に活用し、日本のスイスと自負する山紫水明の里富良野として活気ある豊かな生活圏と美しい快適な生活環境を創造するよう鋭意努力を重ねている。

「富良野市まちづくり計画」を基本に、ゆとりと魅力ある生活圏の形成と地域特性、民間活力を積極的に生かした地域経済活性化を図りながら、豊かな自然、たゆまぬ進歩、さわやかな交流がささえる「創造的な田園都市」を目指している。

(参考資料 地方公共団体総覧)

### 2 調査事項

#### (1) 観光振興施策について

##### ア 「観光振興計画」

富良野市は、平成20年5月に「富良野市観光振興計画」を策定し、「持続可能な観光振興に向けて」をはじめとして、4つの柱を設定し、様々な具体的戦略に取り組んでおり、それらの取組状況及び課題等について調査するものである。

### 3 主な質疑応答等

Q：修学旅行の誘致であるが、富良野市は魅力的なまちということで、全国的にも評価が高いが、目玉は何になるのか。

A：夏はラフティングなどのアウトドア体験、農業体験である。冬はスキーが中心である。

Q：修学旅行とマッチングするのか。

A：マッチングする。修学旅行でいうと、平成21年度は11万5000泊、6万5000人、約70%は関西、四国、九州方面である。今年の予測では10万泊に落ちると見ている。原因としては、飛行機が小型化されたり、休便になったり状況が非常に厳しい。また、市町村合併、学校の統廃合が影響している。

Q：外国人の誘致に力を入れるということであるが、文化の違いなどによってトラブルが起こるのではないか。これまで、どのようなトラブルがあり、どのように対処してきたのか伺う。

A：施設の破損や、最近ドライブ観光が増えている影響で、コツコツぶつけていると聞いている。交通標識の違いなどがあるのではないか。警察署にも外国人対応の署員がいなくて困ったことがある。そのような言葉の面では、観光協会と連携して対応している。

Q：観光マイスターはどのような基準で選定するのか。

A：まだ検討中で進んでいない。観光人材育成のために様々なセミナーなどを行っているので、そちらが一段落してから取り掛かることになる。

Q：全国に何かモデル的なものがあるのか。

A：北海道で行っている。

- Q：観光客数について、昭和41年からかなり細かく集計されているが。
- A：観光施設に協力いただき、半年に1回集計している。今は、観光客入込み数はあまりあてにならないと言われているが、本市は係数を掛けてかなりシビアに集計している。
- Q：集計を飲食店にまで広げる考えはないのか。
- A：考えはない。
- Q：以前、個人的にラベンダーを見に来たりしたが、滞在型より通過型の観光客が多いのではないかと思う。本区にも東京スカイツリーが建設されるが、一番恐れているのは、スカイツリーに訪れた観光客がそのまま浅草に流れることである。何とか区内を回遊してもらうための仕掛けを考えている。先ほど、富良野市では滞在型観光に力を入れているということであったが、観光資源を有機的につなげていくために、どのように取り組まれているのか。
- A：指摘のとおり、富良野市だけではなく、美瑛町などつなげてここで時間を使ってもらおう。例えば広域的には、温泉でつなげてキャンペーンを行ったり、現地発のオプションツアーとして「ちょっくら旅」というものを行っている。これは、富良野市民が楽しむような観光素材で、富良野市民の生活を少し体験してもらおうようなオプションツアーである。
- Q：観光に係る予算規模はどのぐらいか。
- A：2700万円である。国の支援を受けて富良野・美瑛エリアの広域で行っているが、そちらが約5000万円である。
- Q：滞在型の観光客を増やすということであるが、イベントによるものなのか。
- A：体験型が中心になる。イベントではあっという間に終わってしまうので、もう少し時間を使っていたきたい。
- Q：配布資料に富良野オムカレーの資料があるが、これを目当てにした観光客は多いのか。
- A：以前は年間3万食であったが、今は7万食ということである。
- Q：平成19年度の決算状況を見ると、特別会計にワイン事業が6億6千万円あるが、市が直営でやっているのか。利益は上がっているのか。
- A：直営である。ワインは年間30万本、ぶどう果汁は15万本製造している。道内限定であるが、物産展などでも販売している。
- Q：観光振興計画について予算的な説明はなかったが、もう少し具体的な話を伺いたい。
- A：予算については、市、観光協会、広域とある。また、国からの支援もあるが、あまり経費をかけないようにしている。市の補助金としては、観光振興計画の実践の部分で450万円。市から広域の協議会に350万円支出している。沿線の6市町村で約1120万円の予算があり、それを広域で使い、統一したポスター、パンフレット等を作成している。
- Q：東京スカイツリー開業に伴う、観光客の区内回遊のための受け皿作りにはお金がかかる。財政状況が厳しい状況であるが、関連事業費の総額は109億円である。区民がタワーが出来て良かったと思えるようなまちづくりに取り組まなければならない。
- A：タワーには多くの観光客が訪れることが想定されるが、それをどう活かすかだと思う。

以上

#### 4 添付資料等 原本添付省略

## 調査概要 【富良野市】

### 1 調査事項

#### (1) 観光振興施策について

ア 「ふらの観光協会の運営」 ※社団法人 ふらの観光協会

ふらの観光協会は、観光客の利便の向上と安全確保及び市民生活の向上、繁栄に寄与することを目的として設置され、富良野市及び富良野市を中心とする地域の観光宣伝、観光客誘致促進などを行っており、その運営状況及び課題等について調査するものである。

### 2 調査概要

ふらの観光協会の運営について説明を受けた後、「フラノ・マルシェ」の現地調査等を行った。

### 3 添付資料等

原本添付省略